

せつかく一命を取り留めたにも拘らず、
その後の避難生活で亡くなる方が多いのです。

学習院大学教授

福元健太郎

早坂よしひろ

東日本大震災から10年。
首都直下地震の発生も切迫している。
そこで過去の大震災の教訓と、新たな課題である
「災害関連死」について考える。



〈福元教授プロフィール〉
1972年生まれ。東京大学法学部卒業。
ハーバード大学にて在外研究の後、現職。

早坂 本日は福元教授とご一緒に、過去の大震災の教訓、そして「災害関連死」について考えて参ります。よろしくお願ひします。

福元 早坂さんとは、もう20年近くのお付き合いになりましたね。最近も、私のゼミ生を引き連れ都議会にお邪魔して早坂さんと討論会をしたり、共著で災害関連死に関する論文を書いたり、何かとお世話になっています。今日も是非、ミスター防災にお話を伺いたいです。

早坂 いつもの調子で、ざくばらんにやりますよう。

福元 早坂さんはいつもいち早く被災地に入り支援活動をされています。東日本大震災の発災当日はいかがでしたか。

早坂 はい、平成23年3月11日、都議会が閉会した直後の自民党控室で尋常ではない揺れを感じました。ニュースでは「東北が震源地」と報じられ、

大災害になると直感しました。そこで一度、地元の杉並区に帰り、区内の被害が限定的であることを確認した上で、仲間の防災士とともに車で東北に向かいました。夜明けを待つて、仙台空港の南、宮城県岩沼市でご遺体の搬送のお手伝いなどをしました。

福元 発災から10年経った今も、避難生活を余儀なくされている方々が大勢いらつしゃることは忘れられないですね。不幸にも亡くなられた方の死因は何でしょうか。

早坂 死者・行方不明者(計

1万8000人)のうち90%が「水」による被害、すなわち溺死でした。

福元 阪神・淡路大震災とは違いますね。

早坂 はい、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災の死者(6400人)のうち80%が「建物」の下敷きになつての圧死・窒息死でした。

福元 関東大震災はいかがでしたか。

早坂 はい、大正12年9月1日の関東大震災の死者・行方不明者(計10万5000人)のうち90%が「火」による被害、

すなわち焼死でした。

福元 なるほど、一口に震災対策といっても、死因が「水」か「建物」か「火」のいずれであるかによつて、全く別の対策が必要だということがわかりますね。「いのちを守るのが防災」だとする早坂さんは、すぐにかうした数字が出てくるのがさすがです。では今後起きることが心配されている首都直下地震はいかがですか。

早坂 はい、東京都が発表した被害想定による死者(9600人)のうち、60%が圧死・窒息死、40%が焼死だ

災害関連死が、直接死の4倍となった熊本地震。

とされています。一方で私の住む杉並区に注目すると、死者(600人)のうち70%が焼死、かつ区内全ての建物の20%が全焼するとされています。

福元 しかし死者はそれに止まらないだろうというのが、今日のふたつ目のテーマである「災害関連死」です。

早坂 はい、平成28年4月16日の熊本地震では当初、死者は50人(直接死)だとされていましたが、その後災害に伴う過労や環境悪化等による病死(災害関連死、218人)も地震による死者に含むとされました。

福元 これまでは大震災の人的被害の原因と対策を「水」か「建物」か「火」という直接死だけで考えてきたわけです。ところが、災害関連死が直接死の4倍となった熊本地震は、「いのちを守るのが防災」という観点からすると、実に衝撃的だったで

被災者の生活の質を向上させるのは当然のことです。



熊本地震の避難所(益城町)

しょう。

早坂 全くおっしゃる通りです。直接死をいかに減らすかということの重要性に変わりはありませんが、せっかく一命を取り留めたにも拘らず、その後の避難生活で亡くなる方がこんなにも多いとなると、これまでの防災対策で重視されてきたとは言えない災害関連死にも光を当て、積極的な対策を講じることが急務です。

福元 被災者の生活の質を向上させることは当然のことです。他方で、災害関連死に



木造住宅密集地域の調査

があり、それが妥当なものかどうかについて、議論があります。

福元 そして遺族による申請主義ということは、そうした制度を遺族が知らなければ申請できないということになります。災害関連死という言葉も制度もご存知の方が多くとは思えません。

早坂 おっしゃる通りです。

福元 早坂さんとの研究で、熊本地震で災害関連死と認定された方の60%が、発災前と同じ居場所(自宅・病院・介護施設)で亡くなっており、避難所や仮設住宅で亡くなった方は6%であることもわかりました。災害関連死にまつわるそうしたいくつもの課題を、早坂さんと共著の論文にまとめました。やや読みにくいかもしれませんが、ご関心のある方は是非ご読下さい。(※下記QRコードをご参照下さい。)

早坂 これからも福元教授のご知見をお借りし、防災対策を精力的に進めて参りたいと思います。

福元 「いのちを守るのが防災」という早坂さんです。新で、震災対策はもちろん、新

型コロナ対策でも先頭に立つて議論をリードされることを期待します。東京都医師会の尾崎治夫会長と対談された都政レポートも、大変興味深く拝見しました。これからは東京の防災をお願いします。

早坂 本日は誠にありがとうございました。うございました。



※学習院大学法学会雑誌



ホームページ

プロフィール

- 1968年 荻窪の東京衛生病院生まれ(52歳)
 - 西田幼・西田小・松浜中卒業、大検合格
 - 立教大学法学部(北岡伸一ゼミ)卒業
 - 働きながら明治大学公共政策大学院(青山伸ゼミ)修了
 - 防災情報機構NPO法人事務局次長として全国講演
 - 2005年 東京都議会議員に初当選(現在4期目)
 - 都議会予算特別委員長など歴任
 - 明治大学客員研究員 ● 日本AED財団常務理事
- <災害調査>
米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震 他、国内外多数。
東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。



早坂よしひろ
ミスター防災

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区荻窪 5-18-11-202 ☎03(3220)0411 hello@tokyo-hayasaka.com



編集 編集 編集 編集 編集 編集 編集 編集 編集 編集
ナク 水害 健康のレガシー AED(突然死救命) 男の子育て ロボット手術 首都直下地震 オリンピック 被災地の復興 緩和医療 高齢者の住まい
新液都市高齢者オリパラのレガシー AED(突然死救命) 男の子育て ロボット手術 首都直下地震 オリンピック 被災地の復興 緩和医療 高齢者の住まい
バックナンバーはホームページをご覧ください。